

ディア デム

1のまき

sample





ディア デム

1のまき

さく・え えんどう さや

sample

あるところに、みんなが王冠をかぶる国がありました。

この国で生まれたこどもはみんな王様と同じなのだ、王様ペンギンがはじめたことでした。

みんなは大人になったら、王冠を新しくして、一人前と言われるのです。

馬のデムはこのあいだ2歳になりました。もうすぐ大人の仲間入りです。

デムはお花畑を歩きながら国をまわることが大好きでした。デムはこの国のことなら何でも知っています。

あまずつばい木の実のなる場所、風の吹く丘で虫たちの声がひびく時間、花がどうして国じゅうに咲いているのか。それはこの国が恵まれているから、こうして幸せをうけることができるのだと、デムにはわかっていました。



でも、じつはデムは王冠をなくしていました。

走った時に、王冠はすぐに風に飛んでいってしまって、二度と見つからなかったのです。

みんながデムに言います。

「王冠はどうしたの？」

「大事にしまってあるんだ。風に飛んでいってしまわないように」
ほんとうはなくしてしまったのです。

大人の王冠をもらうためには、生まれた時にもらった王冠がひつようでした。

「どうしよう」

デムはだれにも、王冠をなくしたことを話していませんでした。



お母さんにもお父さんにも、話せませんでした。

お父さんは言います。

「デム、お父さんの王冠をごらん。大人の王冠だ。お前も、もうすぐ大人の仲間入りをして、儀式で立派な王冠をもらうんだよ」

お母さんも言います。

「そうよ、王様が国じゅうのみんなにひとつひとつ渡したもののなだから、一生かけて大事にするのよ。王冠が、この国の民という証なのだから」

デムにはその王冠がありません。

儀式の日が近づいてきて、王様ペンギンは言いました。

「今年、大人になるみんなは王冠をびかびかにしてくるように」

デムにはその王冠がありません。



デムはボロボロと泣きました。

みんなは嬉しそうに王冠を木の葉やわらでみがいっているなかで、デムだけが泣いていました。

デムは考えました。王冠がなくても、この国をととてもとても愛していることを伝えなければなりません。

王冠がなかったら、儀式の日にはデムは国から追放されてしまいます。
どうしたら王様はお許しになるでしょう？

デムは考えて考えて、そしてひらめきました。



そして、儀式の日、みんながお城に集まりました。

「みんな、そろったかな？」

王様ペンギンが声をかけて周りを見わたします。

「みんな、おめでとう！」

くちぐちに大人たちが言い合う中で、デムに気づきました。

そして王様もまっすぐにデムを見ていました。

デムは国じゅうに咲いている花や木の実をツルにまきつけた花冠をつけて王様を見つめていました。

その足はぶるぶる震えていて、今にも泣きだしそうで、体にはじっとした汗が浮かんでいました。

王様はゆっくりと口を開きました。

「馬のデム、君は王冠をなくしたのかい？」

「はい、王様」

デムは心の底から涙の泉がわき出るのではないかと思いました。

「デム、なぜそのことを早く言わなかったんだね？」



「言ったら、この国にいられなくなると思いました。

僕はこの国が大好きで、国のことなら何でも知っています。だからここにいたくて」

デムの目から涙がぼろぼろながれでていきました。

「いたくて、その気持ちをこめて僕の冠を作ったんです。大好きなお花で、風や虫たちに助けてもらって集めました。僕はこの国にいたいんです……」

王様ペンギンは少し悩んだあと、こう、言いました。

「デム、どんなことでも筋は通さなければならない。」

王冠をかぶることはこの国のきまりであり、必ずみんなが守る。

きまりをやぶったものはこの国を出なくてはならない」



デムは泣きながらわめくように言いました。

「ほんとうに、この国にいたいんです！」

「では聞くが、君は何でこの国が好きなんだね？ 花や風や虫は国の外にもたくさんある。お父さんやお母さんと一緒にいたいのなら、王冠をなくしたことはすぐに相談するべきだった。

国のことを何でも知っているというのなら、王様の私の質問にもこたえられるはずだ。違うかい？」

デムは言葉をなくして、なにもこたえられませんでした。

sample



「わかりました……」

ようやくしぼりだした声で、デムは王様に一言、
「今からこの国を出ます。今までありがとうございました」
とだけ言って、きびすを返しました。

「待つといい」

王様はデムの背中に話しかけました。
「どんなことでも筋は通さねばならない。
逆を言えば、
筋を通せば、どんなことでも許される。」

旅にでるといい、デム。
この国で過ごした時間と考えたことが、君の頭の中にある。
旅に出れば、出会いがたくさん待っているだろう。
もし、王冠より素晴らしい、私の知らない何かを見つけた時、
君がこの国でのことを思い出せるなら、
私は君を心から許そう」



sample



デムはふり返らずに言いました。

「その時が来たら、王様宛てにお手紙をお出します」

王様は笑ってこたえました。

「では、その時には私も返事を出そう。」

ディア デム、親愛なる花冠の君へ」

sample



... ..

『王様、ありがとうございます』

sample

おしまいの始まり。



sample

いしだえほん No.0087

ディア デム 1のまき

2018年12月10日 初版発行

さく・え

えんどう さや

URL <http://pomu.me/said.endo38.mgmg>

印刷・製本・発行

石田製本株式会社

〒063-0836 北海道札幌市西区発寒16条14丁目3-31

TEL 011-676-4520

<http://i-bb.co.jp/>

©2018 Saya Endo / Ishida Bookbinding

※本書の無断複製（コピー、スキャン、デジタル化等）並びに無断複製物の譲渡及び配信は、著作権法上での例外を除き禁じられています。

また、本書を代行業者などの第三者に依頼して複製する行為は、たとえ個人や家庭内での利用であっても一切認められておりません。

落丁・乱丁はお取り替えいたしませんので、弊社までご連絡ください。

ISBN978-4-909377-86-9

石田製本の直販サイト「いしだえほん」にて、
シリアスな物からシュールな物まで、楽しい絵本が続々発売中です！
<http://p-books.jp/ehon/>

ISBN978-4-909377-86-9
C8771 ¥1200E

定価：本体1,200円＋税



9784909377869



1928771012000

sample